

# 福大明神社

〔葭屋町一条の南にあり、福大明神といふ。祭神稲荷明神、初めは下立売高倉山たかくらにあり、寛永年中九

条殿の館舎を建るによつてこゝにうつす〕

著聞集云 知足院殿何事やらん御望深かりける事侍りけるに、大権房といふ効験かうげんの僧に、だきにの法を行はせられけり。

三七日に満ずる日、知足院殿昼寝ありけるに、女の容顔美麗なるが御枕もとを通りけり。其鬢衣の裳より三尺許あまりたりけり、余にいつくしうえんに思しける俣に、其かづらに取つかせ給ひぬ。女房見帰てさまあしういかにかくはと申ける、声けはひかほのやう凡て此世の類にあらず、天人の天降たらんもかくやと覺させ給ひて、いかにやくと忍びあへさせ給はで強く取止させ給ひけるを、女房あらく引放ちて通りぬと思召ける程に、その髪きれにけり。片腹いたく浅ましくおぼすに御夢さめぬ。幻に御手にものあるを御覧じければ、狐の尾なりけり。不思議に思召て、大権房をめして其様を宣ひければ、いかにも御望空しかるまじく候、年来嚴重のしるし覺候ひつれども、是程に新たなる事はいまだ候はず、御望の事明日午の刻に必かなひ候べし。かく申如く次の日の午の刻に、御悦の事公家より申されたりけるとぞ、件のいき尾は清き物に入て深くひめ蔵めにけり、其後花園のおとゞの御跡冷泉東洞院に御わたりありし時も、祠をかまへて祝はれたりけり、福太神とておはしますめり。

円通山興聖寺えんつうさんこうしやうじ〔小川の北、天神辻子にあり。禅宗濟家さいか、開基は虚応和尚きおう。後陽成院、後水尾院兩朝の勅願所なり。

藤堂家檀越にして資料を寄附す〕

本尊釈迦仏〔仏殿に安置す〕達摩像〔中華供覚盤もろこしきやうかくはんの作、坐像二尺。顔威妙相にして世に比類なし、藤堂高虎たかとらの寄附なり、同所に安ず〕

〔当寺にむかしより錦囊円を弘む。黄檗山天真院わうぼくより出す錦袋円と一葉にして、方を隠元いんげん禅師より授かりたるとなり〕

超勝寺てうしやうじ〔安居院あぐゐん二階町にあり、浄土宗知恩院に属す。開基は尊蓮社鉢誉上人そんれん。方丈の庭中絶妙せつめうにして奇作なり〕

本尊阿弥陀仏〔役行者えんのぎやうじやの作、立像三尺二寸、中将姫雲雀山庵室ひばりの本尊なり。四十八願巡の第十一番〕

称念寺しやうねんじ〔西陣枕町まくらにあり、浄土宗深草流誓願寺に属す、開基は称念上人しやうねん〕

本尊阿弥陀仏〔恵心ゑしんの作、立像二尺五寸許、四十八願巡の第十番〕